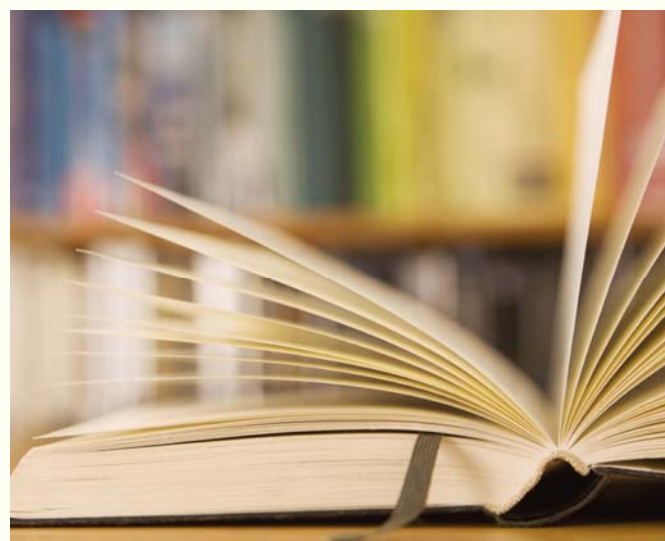


第1部 作成上の留意点の説明・意見交換

大学院カリキュラムの可視化に向けて

松下佳代・山田剛史（高等教育研究開発推進センター）



説明の流れとこれまでの経緯

1. 大学院カリキュラムの可視化とは
2. 目的と効果
3. 記載が望ましい項目・内容
4. 学生への公開方法と今後のスケジュール
5. 作成手順
6. 大学院カリキュラムの可視化の事例

<これまでの経緯>

- 平成25年度実施の機関別認証評価で「更なる対応を要する項目の一つ」として指摘
- 平成28年度実施予定の法人評価を見据えて「大学機関別認証評価の訪問調査等において明らかとなった課題の解決に向けた検討会」を設置
- 平成26年度中に全体でのコースツリーの整備を完了することを目指して教育制度委員会で対応を検討
 - ・各部局にコースツリー作成依頼（H.26.4.14）
 - ・勉強会（2回）
 - ・学部コースツリー提出期限（H.26.9.30）
 - ・学部コースツリー公開（H.27.4）【事例1】
- 学部引き続き、平成27年度中に大学院カリキュラムの可視化整備の完了を目指す

=ディプロマ（学位）にいたる筋道
（カリキュラム）を目に見える形にする

1. 大学院カリキュラムの可視化とは

<学部コースツリーとの共通点>

- カリキュラムがどのように体系化され、ディプロマ・ポリシー*（または教育目標）の達成に繋がっているかを示す。
 - *ディプロマ・ポリシー＝学位授与の方針（「学位」には、学士号・修士号・博士号が含まれる）
 - cf.「京都大学学位規程」…本学で授与している学位の種類 【資料1】

<学部コースツリーとの相違点>

- 学部教育と大学院教育の連関も示す。
- コース（授業科目）間の関係をツリー形式で示す、という形はとらなくてもよい。
 - 何らかの形式で図示した上で、必要に応じて、説明文、但し書き等で補足する
- 単位が授与される正課の授業科目（コースワーク）だけでなく、学位取得に関連する研究指導や準正課プログラム*などを含む。
 - *準正課プログラム＝単位は授与されないが、ディプロマ・ポリシーとして掲げた知識・能力を育成する上で重要な、教育的意図を持った取組

3

2. 目的と効果

<目的>

- カリキュラムがどのように体系化され、ディプロマ・ポリシー（または教育目標）の達成に繋がっているか
- 学部教育と大学院教育がどのように関連しているかを俯瞰的・可視的に把握しやすくする。

<期待される効果（例）>

- 大学院カリキュラム（教育課程）の可視化を行うことで、学内の学生だけでなく、学外・海外の入学希望者も含めて、学修過程の理解や学修指針作り等にも役立てる。

4

-
-
- **ダブル・ディグリー***や留学生への広報等，外国の大学に本学のカリキュラムを説明する際に利用できる。

* **ダブル・ディグリー** = 複数の連携する大学間において，各大学が開設した同じ学位レベルの教育プログラムを，学生が修了し，各大学の卒業要件を満たした際に，各大学がそれぞれ当該学生に対し学位を授与するもの。

* **ジョイント・ディグリー** = 連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に，当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの。

- インターンシップ受け入れ等の企業等や国内外の大学関係者に本学のカリキュラムを説明する際に利用できる。
- 各研究科・専攻等のディプロマ・ポリシー（または教育目標）と関連させることで，対応するカリキュラムの現状等を客観的に確認でき，カリキュラムの検証・改善などにつながる（例：補修が必要な科目が分かる等）。

5

3. 記載が望ましい項目・内容

- **カリキュラムの体系的な流れ**

…カリキュラム（授業科目，研究指導，準正課プログラムなどからなる）を体系的な流れとして示し，それがディプロマ・ポリシー（または教育目標）の達成にどのように繋がるかを明確化する。

- **学部教育と大学院教育の連関**

…学生（例：専門知識を履修していない学生）が入学前に履修しておくことが望ましい学問分野や学修内容，事前に身につけておく知識・能力を記載して連関を示す。

- その他（各研究科等の特性・必要性に応じて項目を設定）

【補足】

- 必ずしもコースツリーのように，授業科目をツリー形式で示す必要はなく，カリキュラムを図や説明文，但し書き等を使い示すことも可能で，そのカリキュラムがディプロマ・ポリシー（または教育目標）の達成にどのように繋がるかを表す。
- 授業科目の可視化ではなく，単位化されていない教育内容も必要に応じて含め，カリキュラムの可視化をおこなう。
- 作成単位（研究科・専攻等）と使用言語（日本語・英語）は，各部局に委ねる。
- カリキュラムを可視化した既存のリソースがあれば，それを活用することも可能。

6

4. 学生への公開方法と今後のスケジュール

- 各大学院の便覧やHP等に掲載（掲載媒体は各部局の任意）

スケジュール・提出期限	
平成27年7月	教育制度委員会から各部局へ作成依頼 (勉強会7月29日開催) * 本日
11月27日(金)	提出期限 * 各大学院で作成されたものを教育推進・学生支援部教務企画課教育企画掛までデータにてご提出ください。
12月	教育制度委員会において報告・確認
平成28年4月～	公開(学生便覧, 講義概要, HP等に掲載)

7

5. 作成手順

- ①各研究科・専門職大学院の授与する学位(修士, 博士等)に対する**ディプロマ・ポリシー**を設定する。必要に応じて, 各専攻等の**教育目標**も設定する。
 - ディプロマ・ポリシーや教育目標は, 学生が身につけるべき**知識・能力**の形で(学生を主語として)記述する。
 - ②単位が授与される正課の**授業科目**(コースワーク), および, 学位取得に関連する**研究指導**や**準正課プログラム**をリストアップし, ディプロマ・ポリシーや教育目標との関連, 配当学年等を確認する。
 - ③**学部教育との関連**を明らかにする。入学前に履修しておくことが望ましい学問分野や学修内容, 事前に身につけておく**知識・能力**を確認する。
 - ④以上の内容を, 何らかの形式で**図示**した上で, 必要に応じて**説明文**, **但し書き**等で補足する。
- * 全ての取組を掲載する必要はなく, 関連性の高い取組は上位カテゴリーに整理して位置づけるなどして, カリキュラム全体を可視化する。

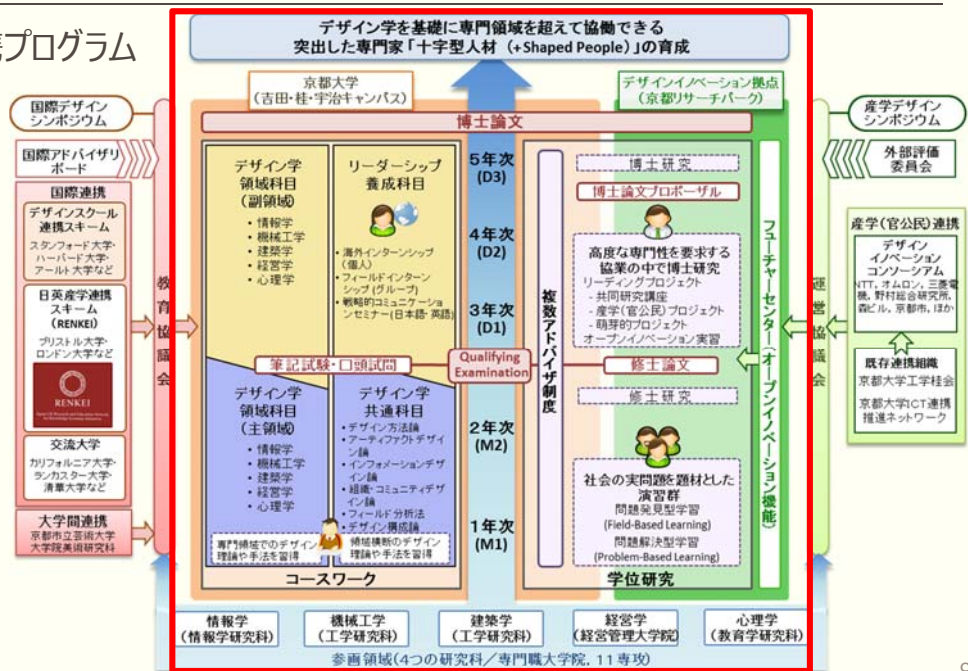
8

6. 大学院カリキュラムの可視化の事例

■ デザイン学大学院連携プログラム 【事例2-1～2-2】

<ポイント>

- ディプロマ・ポリシー
- コースワークと学位研究
- 学年による順次性
- 修士（博士前期）課程と博士後期課程
- 前提となる学問分野
- 日本語と英語
- 図と補足説明



(参考 : <http://www.design.kyoto-u.ac.jp/curriculum/overview/>)

9

■ 他大学の事例

- 大阪大学 人間科学研究科 社会学系
 - 博士前期課程 (<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/sites/default/files/curriculummap-m3.pdf>)
 - 博士後期課程 (<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/sites/default/files/curriculummap-d3.pdf>)
- 長崎大学 水産・環境科学総合研究科
 - 環境 (環境保全設計学専攻, 環境共生政策学専攻), 環境海洋資源学専攻, 海洋フィールド生命科学専攻
 - 博士前期課程 (http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/disclosure/education/pdf/fe_map1.pdf)
 - 博士後期課程 (<http://www.fe.nagasaki-u.ac.jp/research/oceanology.html>)
 - 5年一貫制 (<http://www.fe.nagasaki-u.ac.jp/research/oceanicfield.html>)
- 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科
 - 博士前期課程・博士後期課程 (<http://isw3.naist.jp/Contents/Education/process-ja.html>)